



作業場には、克弥さんの父 弥一さんが自ら組み立てた野菜洗浄機があり、メンテナンスを繰り返し、今でも大切に使われています。

市長の事業者訪問

FACE to FACE ③2

田中 克弥さん(露地野菜栽培農家)
所在地／水子

富士見市農業青年会議所の会長で若手農家の田中克弥さんは、家族で小松菜やほうれん草などを栽培しています。宅地化が進む地域と共存して農業を営む田中さんに、今の想いを伺いました。

父から子へ、畑のバトンをつなぐ

田中さんは代々続く農家の家に生まれ、幼い頃から畑を身近に感じ育ってきました。大学卒業後、民間企業へ就職しましたが「父が元気なうちに農業の技術を学びたい」との思いから就農を決意した」と語ります。現在は家族で力を合わせて農業を営んでいます。主に小松菜とほうれん草を栽培しており、中でも小松菜は市内事業者である(株)手づくり村で『富士見ぎょうざ』の材料として使用され、市内の学校給食で提供されています。また、水谷小学校の児童を受け入れる農家訪問事業への協力や健康増進センターで開かれる料理教室へ野菜を提供するなど、地産地消への取組推進と地域に根差した農業経営を目指しています。

若き農家が耕す“ふるさとの畑”

宅地化が進む中、地域の方々とのつながりを大切にする田中さんは、自身が育てた野菜のお裾分けを通じて幅広い世代と交流するなど、父と母からは畑や技術だけではなく、温かい人柄も受け継がれています。就農後は、父の代で一度はやめていたほうれん草の栽培を再スタート。その挑戦を支えたのは、地域の方々や同世代の農家仲間とのつながりでした。気温の変化をはじめとする気象条件への対応、虫や鳥の被害などさまざまな苦労もあります。こうした苦労や販売の工夫を共有し合う中で、互いに刺激を受けながら日々の成長につながっています。「これからも仲間や地域の皆さんと支え合いながら、いずれは我が子へ畑を残していきたい」と語ります。

今回の訪問では、受け継いだものを次世代へつなげていく姿勢に、大きな力を感じました。農家の方々が地域とともに共存していくために必要な支援とは何かを考える貴重な機会となりました。

■市公式
ホームページ



■ SNS



LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube



【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で



【マチイロ】広報「富士見」をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴



Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。



みんな笑顔☆ふじみ

富士見市

☎ 049-251-2711(代)

FAX 049-254-2000

〒354-8511

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。